

なんぶ メール

Nanbu-Mail

2014.10
Autumn vol.7



南部病院と地域のふれあいマガジン

特集 1 2 ページ

誌上市民公開講座

がん治療の最新事情

新しい抗がん剤・分子標的薬ってなに？ ～消化器がんを中心に～
サポータータイプケア ～生活を支えるためのがん治療～

特集 2 6 ページ 南部病院の皮膚科を紹介します

特集 3 8 ページ 診療を支える病理診断科

南部病院の 理念

私たちは、医療の質の向上をめざし、常に努力します
私たちは、患者さんの人格、意志を尊重します
私たちは、地域の要望に対応した医療・保健・福祉サービスの充実を図ります
私たちは、互いに信頼し、感謝する心で、働きます

南部病院の 基本方針

良質な地域医療、救急医療による地域への貢献
他の医療機関との密接な連携と、患者さん中心の医療の実践
医療・保健・福祉サービスの総合的な提供
地域医療関係者及び職員の相互研鑽



良質な地域医療・救急医療による地域への貢献を目指しています
社会福祉法人 恩賜財団 済生会横浜市南部病院

がん治療の最新事情

7月5日、港南区民文化センターで開催された市民公開講座の講演内容を抜粋してご紹介いたします。今回は講演1で土田外科副部長が「新しい抗がん剤・分子標的薬ってなに？」と題して分子標的治療薬の説明と従来の抗がん剤との違いなどを講演し、講演2では土井緩和医療科主任部長が、「サポートタイプケア」生活を支えるための「がん治療」のテーマで、治療中でも普通の生活が送れるように病院の緩和ケアチームが入院・外来を通じて、サポートしていくことをわかりやすく説明しました。



講演

1

新しい抗がん剤・分子標的薬ってなに？

「消化器がんを中心に」

がんが肝臓や肺、腹膜などの遠くの臓器に転移している場合、抗がん剤が治療の中心となります。今回は抗がん剤治療の中でも比較的新しい薬である分子標的薬について解説しました。



外科副部長
土田 知史

分子標的薬とは？

がん細胞は細胞分裂をさかんに繰り返して増殖しています。従来の抗がん剤が

ん剤（殺細胞性抗がん剤）は、細胞分裂を阻害することなどによりがんを攻撃します。しかし、正常な細胞でも、細胞分裂が盛んな粘膜や毛髪、皮膚、骨髄などは障害を受けやすく、

様々な副作用を伴います。近年、がん細胞が増殖するしくみが、分子レベルで解明されてきました。増殖の指令である「増殖因子」が、細胞が情報を受け取るセンサーの「受

容体」に結合し、細胞内の蛋白質によって情報が「核」に伝えられることで増殖が起こります。がん細胞では、増殖因子が過剰な状態であったり、受容体などに異常があり、指令

が過剰に核に伝わってしまうことで腫瘍が増殖して増殖しています。これらのがん特有あるいは過剰に発現している因子を標的として、その機能を制御するよう開発された薬を分子標的薬といいます。（図①）副作用が少ないことが期待されてきましたが、実際には、分子標的薬にも従来の抗がん剤とは異なった様々な副作用があることが判明しています。

消化器がんの使用される分子標的薬

現在、消化器がんで使用されている分子標的薬の主な作用は、血管新生阻害薬と増殖因子阻害薬に分けられます。（図②）

腫瘍がある程度以上の大きさとなるためには、酸素や栄養を運んでくる血管を新たに腫瘍まで引き込む必要があります。そのためがん細胞な

どから血管を新たに作る指令が出されています。アバスタチンなどの血管新生阻害薬は、血管を新生する指令を阻害することで、異常に増殖したがん組織の血管を正常化し、従来の抗がん剤を効きやすくする効果があります。（図③）

一方、細胞の増殖に関わる受容体の一つにEGFR（上皮成長因子受容体）があります。（図④）増殖因子阻害薬であるアビタックスやベクティビックスなどの抗EGFR抗体薬は、増殖因子と受容体との結合を阻害し、腫瘍の増殖を抑制します。しかし一部の大腸癌では、細胞内の指令を伝達する蛋白質の一つであるKRASに異

常（変異型KRAS）があり、増殖因子による指令がなくても常に増殖してしまう状態となっています。（図⑤）このようながんでは、抗EGFR抗体薬を投与してもがんの増殖は抑えられません。KRASのように薬の効果を実験で予測できる指標を「バイオマーカー」といいます。治療開始前にKRASの状態を調べ、抗EGFR抗体薬の効果が期待できるかどうかを確認する必要があります。

今後の展望

分子標的薬の登場により、各疾患の治療成績は確実に改善しています。今後も新たな分子標的薬の開発とともに、バイオマーカーによって効果が期待できる人を治療前に選択する個別化医療がさらに進歩するものと思われれます。正しい情報のもと、希望をもって患者さんと一緒に治療に取り組んでいきたいと考えています。

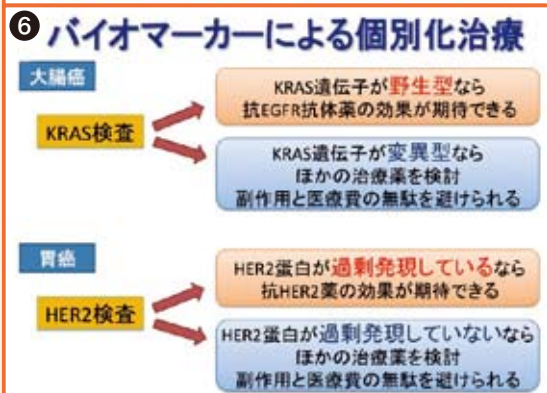
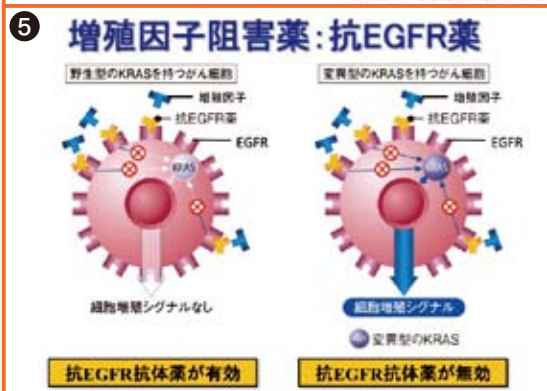
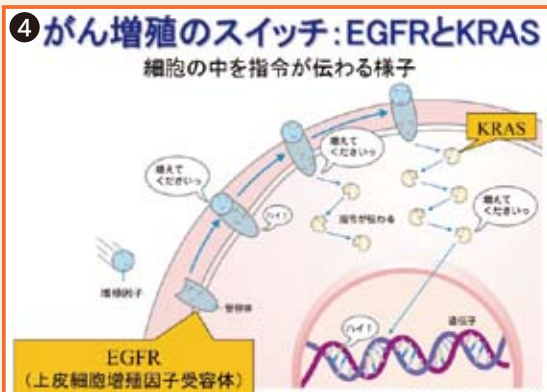
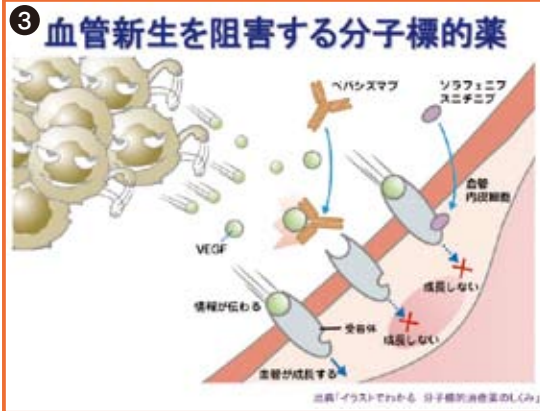
1 がん分子標的治療薬

がん細胞と正常細胞との違いからがん特有あるいは過剰に発現している増殖や転移などに関与する因子（標的）に「ピンポイント」で作用することを目指して創薬された薬剤

がん増殖に特異的にはたらく分子を狙い撃ち

2 現在承認されている分子標的薬（消化器がん）

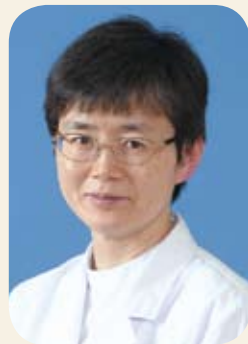
疾患	標的分子	血管新生阻害薬	増殖因子阻害薬	分子標的薬	薬剤名
胃癌	HER2	○	○	トラスツズマブ	ハーセプチン
大腸癌	VEGF	○	○	ベバシツマブ	アバスタチン
	EGFR	○	○	セツキシマブ	アビタックス
膵癌	EGFR	○	○	パニツツマブ	ベクティビックス
	VEGF, RAF, PDGFRα	○	○	レゴラフェニブ	スチバーガ
肺癌	EGFR	○	○	エルロチニブ	タルセバ
	VEGF, RAF, PDGFRα	○	○	ソラフェニブ	ネクサバル
肝臓癌	VEGF, RAF, PDGFRα	○	○	ソラフェニブ	ネクサバル
	KIT, PDGFR	○	○	イマチニブ	グリベック
GIST	VEGF, PDGFR など	○	○	スニチニブ	スーセント
	VEGF, RAF, PDGFRα	○	○	レゴラフェニブ	スチバーガ
膵内分泌腫瘍	VEGF, PDGFR など	○	○	スニチニブ	スーセント
	mTOR	○	○	エベロリムス	アフィニートル





サポータータイプケア 生活を支えるためのがん治療

著しく進歩したがん治療に合わせて、「緩和ケア」の定義が変わってきています。大切なのは、がん治療中でも「ふつう」の生活を送れること。そのための「サポータータイプケア(早期からの緩和ケア)」についてご説明します。



緩和医療科主任部長
土井 千春

がん治療の進歩と「緩和ケア」の変化

この20年ほどの間にがん治療は著しく進歩してきました。抗がん剤の種類も増え、抗がん剤の副作用を抑える技術も進歩してきています。それでも「がん」という診断は患者さん・家族にとって、大変重いものです。これからのなが起こるのか、治療や痛みで苦しむのではないかととても心配になることが多いと思います。いま、がん治療の世界では、「早期からの緩和ケア」が重要とされています。「早期からの緩和ケア」、すなわち、がん治療中のサポータータイプケアが目指すものをご説明します。

世界保健機関による緩和ケアの定義

そもそも、緩和ケアという言葉の歴史は、1950年代に始まった「終

世界保健機関による緩和ケアの定義

WHO1990

治癒を目指した治療が有効でなくなった患者に対して行われる積極的な全人的ケアである。痛みやその他の症状のコントロール、精神的、社会的、そして霊的問題の解決が最も重要な課題である。目標は、患者とその家族にとって出来る限り可能な最高のQOLを実現することである



WHO2002

生命を脅かす疾患による問題に直面している患者とその家族に対して、痛みやその他の身体的問題、心理社会的問題、スピリチュアルな問題を早期に発見し、的確なアセスメントと対処を行うことによって、苦しみを予防し、和らげることでクオリティ・オブ・ライフを改善するアプローチである

末期ケア」から始まりました。しかし、がん医療の進歩とともにその考え方は徐々に変化し、WHOの定義も1990年代には「治癒を目指した治療が有効ではなくなった患者」が対

サポータータイプケアの定義

「サポータータイプケア」とは、1980年代にアメリカやヨーロッパでがん治療から発展した考え方で、治療に伴う副作用の軽減やリハビリテーションなどがん治療でない様々な治療を指しています。ここで強調したいのは、言葉はいろいろあっても緩和ケアの本質は、「生活をいかに成り立たせるか」にあるということです。

がん治療とサポータータイプケア

がん治療の中でサポータータイプケアは、①からだのつらい症状をとって、がん治療に前向きに臨めるようにする、②抗がん剤治療の副作用をいかに抑えさえるか、③抗がん剤治療中でもいかに「ふつう」の生活を送れるようになるか、を目指しています。

抗がん剤の副作用を制御する

一口に抗がん剤の副作用といっても、吐き気や脱毛だけではなく、白血球の減少や下痢、便秘など様々なものが、薬剤によって、その組み合わせによって出たり出なかったりします。ま

痛みの治療と医療用麻薬の適切な使い方

痛みに対しては、医療用麻薬を適切な時期に適切な量を使っていくことが大切です。医療用麻薬を使うことにより胃が悪くなったり、腎臓や

た、副作用が出やすい時期もある程度決まっています。抗がん剤治療の最中は、抗がん剤のプロである主治医を筆頭に、相談窓口になる看護師、薬の組み合わせを監視し、使い方の指導をする薬剤師、サポータータイプケアのプロである緩和ケアチーム(医師・看護師・薬剤師・栄養士・ソーシャルワーカー他)が副作用の制御につとめ、社会生活を送るための相談につとめています。

肝臓が悪くなったりすることはありません。また、早めに使ったからといって効果がなくなることもありません。患者さんの痛みの特徴や、体の状況によってもっとも合う薬を選んで調整していきます。日常生活のなかで使いやすい工夫も話し合っていきます。薬を定期的にきちんと飲むということは結構大変なことです。処方をしてもらう患者さんの工夫としては、以下のことがあげられます。

- ① だいたい飲んでいる時間をつたえましょう。
- ② 飲みにくい薬、飲みたくない薬、効果を感じられない薬は医師に相談しましょう(黙ってやめることはしないでください)。
- ③ 医師に直接言いにくいときは、薬剤師や看護師に相談すると思います。

南部病院緩和ケアチームが目指すケア



済生会横浜市南部病院の緩和ケアチーム

一緒に考えること、⑤患者さんだけではなく、家族もサポートすることをめざしています。

済生会横浜市南部病院の緩和ケアチームは、①なるべく楽に治療が受けられること、②なるべく楽に生活ができること、③自分のからだときあう方法を一緒に考えること、④自分のことにつきあう方法を一緒に考えること、⑤患者さんだけではなく、家族もサポートすることをめざしています。

「がん相談支援室」のご紹介

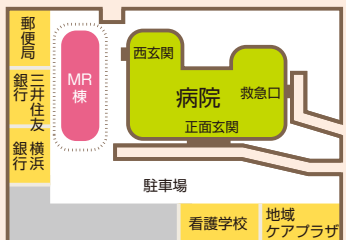
南部病院では、がんの診断を受けた患者さんやそのご家族を全面的にサポートする体制を整えています。がんに関する様々なご相談に専門のスタッフが対応しています。

また、「がん情報コーナー」も設置しています。聞いてみたいこと、お困りのことがありましたら、どうぞご相談ください。お待ちしております。

【受付時間】月曜日～金曜日(9:00～17:00)
※年末年始、祝日除く

【電話番号】045-832-1111(代)
「がん相談支援室」とお伝えください。

【場所】南部病院西玄関前(駅側) MR棟1階



がん患者さんのためのがん体験者による「ピアサポート」のご紹介

みなさんは、「ピアサポート」という言葉をご存知ですか?ピアサポートは、同じような境遇やよく似た体験を持つ者同士が助け合うことで、ここでは、がん体験者の方が、不安や心配を抱えたがん患者さんを支援していくことを意味します。

がん体験者に、不安や迷い、つらさを話すことで、気持ちが少し軽くなったり、自分だけじゃないんだと思えるようになるかもしれません。患者さんご本人やご家族であればどなたでも相談できます。お気軽にご利用ください。

【受付時間】月・金曜日※年末年始、祝日除く
(11:00～16:00)

【場所】南部病院西玄関前(駅側) MR棟1階
上記案内図参照

【対象】がん患者さんとご家族

【お問合せ】045-832-1111(代)
看護相談室(嶋中ますみ)
予約不要・相談無料

④尋常性乾癬

【じんじょうせいかんせん】

厚い皮が付着した赤い皮疹が全身に生じる原因不明の皮膚疾患です。ステロイド剤の外用や紫外線治療が有効です。症状が広範囲な場合は、注射薬(生物学的製剤といいます)が用いられることがあり、効果が期待できます。



紫外線治療

⑤水疱性類天疱瘡【すいほうせいるいてんぼうそう】

全身にかゆみを伴う水疱が多発する疾患で、高齢者に多く見られます。自らの皮膚の一部を攻撃してしまう抗体(自己抗体)によって生じる自己免疫疾患です。ステロイド剤の内服が必要であり、入院による治療を行います。

⑥基底細胞癌【きていさいぼうがん】

高齢の方の顔面にみられる、黒色の悪性腫瘍です。悪性ですが、転移をすることは稀であり、腫瘍の切除で治療を見込めます。当院では、外来や入院での手術を行っています。



⑦悪性黒色腫【あくせいこくしよくしゅ】

皮膚の色素細胞(メラノサイト)の悪性腫瘍で、転移しやすく、悪性度が高いです。早期発見、早期の切除が治療の原則です。リンパ節転移の検出には、センチネルリンパ節生検が有効であり、当院でも行うことができます。



⑧乳房外パジェット病【にゅうぼうがいパジェットびょう】

一見湿疹を思わせる赤い皮疹で、高齢の方の外陰部に見られる悪性腫瘍です。アポクリン腺という汗腺が腫瘍化したものと考えられています。見た目よりも広範囲に腫瘍が広がっているため、大きな手術が必要になります。

皮膚の病気は特殊な道具を用いなくても誰にでも見ることができます。

そのため患者さん自身が早期発見できるという利点がある一方で、自己判断で悪化させてしまうことも少なくありません。皮膚症状でお困りのときは、是非ご相談ください。

特集 ②

南部病院の 皮膚科を紹介します



皮膚科主任部長代行 高江 雄二郎

当院の皮膚科では、皮膚に生じるあらゆる疾患を対象としています。皮膚には感染症やアレルギー、自己免疫疾患から良性・悪性腫瘍まで様々な疾患が生じます。皮膚疾患の多くは視診での診断が可能ですが、診断困難な場合も少なくありません。当科では3名体制で診療にあたっており、診断が困難な症状に対しては、採血や細菌検査、画像検査、皮膚生検(皮膚を一部切り取って標本にして調べる検査)などを行って総合的に診断を行っています。当科に受診される皮膚疾患のうち、いくつかをご紹介します。

①帯状疱疹【たいじょうほうしん】

幼小児期に感染した水痘(みずぼうそう)と同じウイルスによって生じる感染症です。神経節に潜伏感染していた水痘帯状疱疹ウイルスの再活性化によって生じ、痛みを伴った水疱が体の片側だけに現れます。抗ウイルス剤の内服もしくは点滴を行って治療します。当院では入院による治療も行っています。



②蜂窩織炎【ほうかしきえん】

顔面や四肢に生じる細菌感染症です。ブドウ球菌や溶血連鎖球菌が主に皮膚から感染し、痛みを伴って赤く腫れる症状を呈します。足に生じた場合は安静にすることも大事であり、入院による治療を行います。



③疥癬【かいせん】

ヒトヒゼンダニ(大きさは0.4mmほど)による皮膚の感染症です。指の間や足、陰部などに激しい痒みを伴う皮疹が生じます。皮疹から虫体や虫卵を検出することで診断ができます。治療は、駆虫剤の内服を行います。



ヒトヒゼンダニ

手術で癌をとることを考えてみましょう。癌の範囲は画像診断などにより手術前に予測されていますが、手術時に予想外に癌が広がっている疑いが

重要な術中迅速診断

手術で癌をとることを考えてみましょう。癌の範囲は画像診断などにより手術前に予測されていますが、手術時に予想外に癌が広がっている疑いが

臨床医をレベルアップさせる病理診断

癌は早期発見が第一です。しかし、たとえば早期胃癌は胃潰瘍と区別がつきにくい場合もあります。内視鏡でわずかな違いを臨床医が見つけられるかが勝負です。これはその医師の能力によりりますが、多くは経験の積み重ねにより得られるものです。従って、内視鏡所見と病理所見との比較検討を繰り返すことが重要です。ですが病理診断科がないと難しいことです。

病変を最終診断

採血やさまざまな画像検査等でいろいろな病変（＝病気の部分）を発見診断できるようになりました。しかしそれが本当はどんなものかを直接見ているわけではありません。病理診断は病変を標本にして組織、細胞レベルまで直接見るもので、直接見ることができるのは病理診断科だけです。ですから、病理診断は病変が何であったかの最終診断になります。

ある場合があります。癌の範囲の確認には手術中に病理標本を作って判断します（迅速診断といいます）。病理診断科がないと迅速診断ができず、場合によっては再手術が必要になってしまうこともあります。

病理診断の速さは全国有数

このように病理診断科は、患者さんに直接接してはいませんが、とても重要な役割を担っています。当院の病理診断科は、医師4名（常勤・非常勤各2名）、臨床検査技師・細胞検査士6名、医療事務1名のスタッフで構成され、診断の多くは最短1～2日、手術検体のように時間がかかるものでも1週間以内にはほとんどが報告されています。これは全国有数の早さで、臨床の先生方や患者様からも高い評価をいただいております。*病院機能評価においてS評価をいただいております。

病理診断は、検体受付、標本作製、診断、報告まで1つの流れが完成して初めて診断として意義あるものになります。病理診断を支える医療事務、標本作製や細胞診断スクリーニングをする臨床検査技師（全員が細胞検査士資格を有しています）、病理医がそれぞれの役割を果たしてはじめて精度の高い診断ができます。皆さんが受

病理診断科の速さは全国有数

診する多くの臨床科で、医師、看護師、受付、その他コメディカルの方々といたスタッフが一体となつてその科を支え診療にあたっているのと同様、病理診断科もさまざまなスタッフが支えています。病理は中央部門「中央病理部」でありながらスタッフをはじめ一体として診断科「病理診断科」を運営し、精度の高い診断をご提供してまいります。

誌面の関係で紹介は限られましたが、病理診断科の役割をいくつかの例で、ご紹介させていただきます。

（担当医）

病理診断科主任部長 中山 崇
 医師 筒井 美帆
 非常勤 大沢 淳子
 非常勤 日比谷孝志

※病院機能評価

病院が組織的に医療を提供するための基本的な活動（機能）が適切に実施されているかどうかを評価するための仕組みで、評価項目は「S」「A」「B」「C」の4段階で、「S」は秀でているという評価です。当院は平成26年5月2日、日本医療機能評価機構から更新認定されました。



●病理診断科のスタッフ

診療を支える部門紹介 特集 ③ 病理診断科をご紹介します

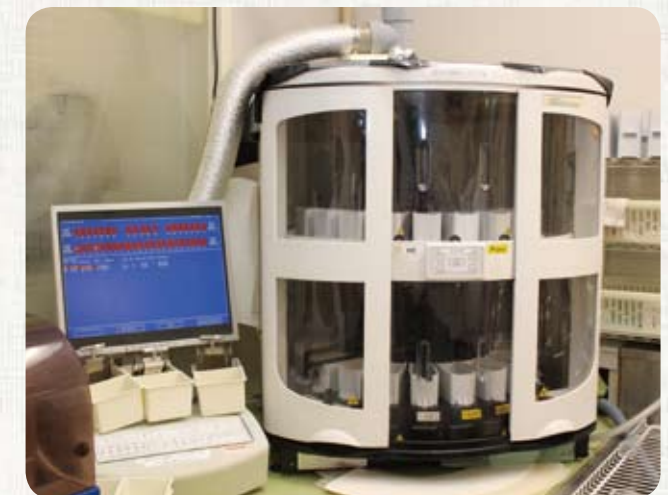
病理診断科を標榜する病院が増えてきましたが、当院も含め外来診療をしていない病院が多く、馴染みの少ない科です。しかし、診断、治療、医療レベル向上に重要な診療科です。



●ディスカッション顕微鏡、電子カルテPC及び大型ディスプレイから構成されたディスカッション／カンファレンスシステム



●免疫染色標本自動免疫染色装置
 30枚まで染色でき、トレー（10枚）ごとに時間差で染色できるため、多くの染色オーダーを当日中に処理しています。



●組織標本、細胞標本を染色する自動染色装置
 多くの施設では組織標本と細胞標本を別々の染色装置で染色していますが、当院では1台で組織標本と細胞標本とを染色できるコンパクトな染色装置を使用しています。

Topics

Vol.05
地域連携医療機関のご紹介

済生会横浜市南部病院では、患者さんの健康と安心を、地域連携登録医及び病院の医師が、一緒に見守っていきます。

港南区 もり小児科 小児科

当院は、子供の健康、子育て一般について、なんでも気軽に相談できる町の小児科医院でありたいと思っています。子供の病気の診療では、心配な病気と心配ない病気をしっかりと見分けることが大切です。その役割を大きな病院に勤務した経験を生かして、担っていきたくて考えています。また、予防接種や乳児健診も重要と考え、あまり待たずに予防注射などが受けられるように、特別に予約時間を設けています。さらに、特殊な検査や治療が必要な場合は、南部病院をはじめとする高次医療機関へスムーズに受診できるように、紹介しています。



院長
もり かつお
森 哲夫先生

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00~11:30	○	○	/	○	○	○	/
14:30~16:00	△	△	/	△	△	/	/
16:00~18:00	○	○	/	○	○	/	/

※土曜日は午前からのみの診療になります(12時30分まで受け付けます)
※△印は予約診療です。原則として健康なお子さんの乳児健診と予防接種のみを行います。
※休診日:水曜日、日曜日、祝祭日
※詳細はURL(もり小児科ホームページをご確認ください)



〒234-0054 横浜市港南区港南台3-3-1港南台214ビル202号 ☎045-835-3715
URL <http://homepage2.nifty.com/morikidsclinic/>

第4回ブラック・ジャックセミナー 中学生が将来の医師をめざし 先端医療技術を体験



済生会横浜市南部病院とジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社が共催する「ブラック・ジャックセミナー」が8月16日に中学生31人が参加して開催されました。

初めに今田敏夫院長から「最近テレビや新聞で医療関係の特集やドラマなどを見る機会が多いですが、それをこのセミナーで体験するのは非常に貴重です。今日の体験を将来の職業選択時の参考にして下さい。」と挨拶がありました。その後、研修医の川田菜月医師が研修医の一日のスケジュールや海外医療ボランティア体験など「医師の仕事について」話し、参加者は真剣な眼差しで聞き入っていました。



外科に関する様々な先端医療技術を体験するこのセミナーは、第一線で活躍する医師の直接指導により、実際手術で使われる針を用いた縫合体験、超音波メスで鶏肉を切る模擬手術体験、胃や腸に見立てたスポンジを接合する自動縫合器・吻合器体験、その他にも救急



医指導によるAEDを用いた心肺蘇生体験や内視鏡トレーニング体験、手術シミュレーターを体験しました。

参加した中学2年の高島麻菜さんは、「内視鏡トレーニング体験で実際の鉗子を使ってビーズを移すのが面白かった。将来は手術で活躍する麻酔科医に興味を持っています。」と話してくれました。



アンケートでは約半数の中学生が「将来医師を目指している」と答え、「医師の仕事がとても身近に感じられた」、「設備の整っていない場所での海外医療ボランティア体験の話にとっても興味を持った」などの感想もありました。

磯子区 医療法人社団慈光会 堀口医院

内科 整形外科 形成外科 リハビリテーション科

当方で30年程開業医をしていますが、当初から南部病院にはバックアップをお願いしてきました。当院は、整形外科、形成外科、リハビリテーション科、内科を標榜していますので、肩こり、腰痛、関節痛、外傷、体表の外科(形成外科)、リハビリテーション、内科一般を診療していますが、緊急時の対応や精密検査、その後の治療については、南部病院に紹介状を書いて、お願いしています。また、南部病院からは、日常的な投薬や検査の依頼を受け、かかりつけ医として治療を継続しています。



院長
ほりぐち ただま
堀口 定先生

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00~12:00	○	○	○	○	○	○	/
15:00~18:00	○	○	○	○	○	/	/

※休診日:土曜日の午後、日曜日、祝祭日
※年末年始、夏期休暇、連休、学会参加などで、臨時休診や受付時間が変更になる場合がありますので、来院前にご確認ください



〒235-0045 横浜市磯子区洋光台3-15-13 ☎045-831-9534

DMAT隊員がヘリコプターでの搬送連携を確認

DMAT隊員と消防隊員で連携手順の確認



着陸したヘリコプターへの患者搬送訓練



平成26年8月12日(火)、済生会横浜市南部病院のDMAT隊員が横浜市港南消防署との合同訓練に参加しました。訓練は横浜市消防局航空隊が、港南区の飛行場外離着陸場に指定されている日野中央公園にヘリコプターで着陸するところから始まり、訓練第1ステージでは、当院から他院へ転院する患者をDMAT隊員が消防局航空隊に引き継ぎをしてヘリコプターに搬送する訓練、第2ステージとして、ヘリコプターで搬送されてきた患者を消防局航空隊からDMAT隊員に引き渡す訓練をそれぞれ実施しました。

神奈川県の大災害拠点病院に指定されている当院は、大災害が発生した際にはヘリコプターで搬送されてきた患者の受け入れも想定されます。ヘリコプターを使用した搬送は平時にはなかなか発生しないケースなので、定期的な訓練とマニュアル等で手順を明確にして確実に対処できるよう心掛けておく必要があると感じました。

南部病院 DMAT 業務調整員 伊藤祐介

※DMAT:大災害発生から48時間以内の超救急期医療を担当する専門チーム Disaster Medical Assistance Team の略

Information

イベント情報 10月・11月・12月

★南部病院開催のイベント お問い合わせ 経営企画課広報担当
TEL 045-832-1111(代)

南部病院コンサート 場所 南部病院1階待合ホール

第139回「音の絵本」コンサート※ヴァイオリン、フルート、琴、クラリネットのジョイント演奏

日時 11月15日(土) 午後2時～3時 出演 「音の絵本」のみなさん

第140回 ラズベリーグループコンサート
(アンサンブル演奏&歌)

日時 12月6日(土) 午後2時～3時

出演 ラズベリーグループのみなさん



ラズベリーグループ
コンサート

★横浜市港南台地域ケアプラザ開催のイベント

お問い合わせ TEL 045-834-3141

南部病院健康教室 場所 港南台地域ケアプラザ 多目的ホール

「睡眠時無呼吸症候群について」 日時 11月1日(土) 午後2時～3時30分

講師 南部病院呼吸器内科主任部長 宮沢 直幹 定員 事前申込50人

開所20周年記念イベント

場所 港南台バース ドゥファッションプラザ

日時 10月8日(水) 蓄音機コンサート 午前11時～12時

福祉体験コーナー 午後1時～3時

日時 10月9日(木) 音楽のひろば(音楽療法) 午前10時30分～11時

「港南台香彩会」(民謡舞踊) 午前12時～12時30分

福祉体験コーナー 午後1時～3時



場所 横浜市港南台地域ケアプラザ

日時 11月29日(土) 蓄音機音楽鑑賞会・記念講演

「流行歌に唄われたヨコハマ～戦前編～」 午前10時～11時30分

講師 レコード蒐集家 八木義之

「エルバ」(ハンドベル演奏) 午後1時30分～2時10分

「港南台第一中学校PTA混声コーラス同好会」(合唱) 午後3時～3時40分

日時 11月30日(日) 「アキラボーイ」(小学生限定) 午前11時～12時

活動団体・ボランティア合同交流会 午後2時～3時

★横浜市能見台地域ケアプラザ開催のイベント

お問い合わせ TEL 045-787-0991 [地区センター] TEL 045-787-0080

横浜市能見台地域ケアプラザ・能見台地区センター「合同祭」

日時 10月11日(土) 午前10時30分～午後2時30分

場所 横浜市能見台地域ケアプラザ・能見台地区センター

(金沢区能見台東2-1/京急能見台駅5～6分)

内容 [1階ケアプラザ]

健康チェック、小学生の和太鼓、

模擬店など

[2階地区センター]

地域芸能祭など

※駐車場はありません



ご相談ください。

サポーターケアではがんの痛みが出てきたからの緩和と医療ではなく、早期からの緩和ケアの重要性が謳われたことに感じました。南部病院では「がん相談支援室」を設置してがん患者さんやご家族を全面的にサポートする体制を整えています。がんに関する様々なご相談に応じていますので、どうぞ

★南部病院市民公開講座★
耳鼻咽喉科に関する講演

日時 11月29日(土) 午後2時～3時30分
(開場:午後1時30分)

場所 港南台ひの特別支援学校 ホール

めまいあれこれ
～めまいの対処法と予防法～

講師 南部病院耳鼻咽喉科
主任部長 小形 章



めまいは皆さんがよく経験する症状ではないでしょうか。立ちくらみや軽いふらつき、ぐるぐる回って気持ち悪くなってしまうこと、時には脳卒中などめまいの原因は様々で対処法もそれぞれです。

めまいを起こす様々な病気とその対処法、特に頻度の高い内耳が原因で起きるめまいを中心にお話します。

定員 200人

申込方法 先着順:会場に直接ご来場ください

お問い合わせ 南部病院 地域医療連携室

TEL 045-832-1111(代)

入場
無料

★横浜市六浦地域ケアプラザ
開催のイベント

お問い合わせ TEL 045-786-8801

医療講座「歩行支援用具の選び方・使い方」

日時 10月29日(水) 午後2時～3時30分

場所 横浜市六浦地域ケアプラザ 多目的ホール

講師 済生会若草病院 理学療法士

主査 木下謙介

定員 約40人(要予約)



編集後記

7月に行われた市民公開講座で外科土田知史副部長にがん治療に使用される抗がん剤の一つである「分子標的薬」について、緩和医療科の土井千春主任部長にサポーターケアの生活を支えるためのがん治療の演題でそれぞれ講演していただきました。今回はこの時の講演内容を抜粋してお伝えしました。がん細胞が分子レベルで解明されてきたことやがん細胞が成長するために血管を作る指令を出していることなどを聞いて驚くことばかりでした。

なんぶ
Mall

vol.7 2014.10
Autumn

表紙写真(横浜市中区 三溪園の秋)

【撮影】経営企画課 徳増吉廣

社会福祉法人 済生会横浜市南部病院

〒234-8503 横浜市港南区港南台3-2-10 TEL:045-832-1111(代表) FAX:045-832-8335

【発行人】院長 今田敏夫 【編集】南部病院広報委員会 【平成26年10月発行】